

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4073000491		
法人名	株式会社 データベース		
事業所名	我楽ちくしの	ユニット名	1F
所在地	筑紫野市大字山口865-1		
自己評価作成日	平成28年11月30日	評価結果市町村受理日	平成29年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成29年1月18日	評価確定日	平成29年2月16日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・規則のないことが規則で、入居者様本位の生活ができるように支援している。</li> <li>・地域との連携を大切にしている。</li> <li>・1汁4菜の充実した職員手作りの食事を提供している。</li> <li>・年2回の家族交流会で地域と家族との交流を行なっている。</li> </ul>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>“我楽ちくしの”は平成18年に現在の場所に新築移転されている。移転後10年以上が経過し、年々地域に根差したホームになってきている。庭から野鳥を眺める事ができ、田畑の稲の変化を見ながら季節を感じる事もできる。春になると“つくし”“よもぎ”“ふき”などの野草を採りに行き、天麩羅等のお料理にして食べられている。お彼岸には“おはぎ”を作り、気候の良い日は裏庭でおやつを楽しまれている。3食の食事は一汁四菜で、「食べる事を楽しんで頂きたい」と言う開設者の思いを職員が引き継がれている。職員のレベルアップのための取り組みを継続し、毎月の勉強会も続けている。今後も職員個々の意見を引き出し、チームで業務内容を検討できる環境を作っていくと共に、「その人らしさを尊重し共感します」等の理念の実践に繋げていく予定である。</p>
--

# 自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りの際に入居者様の状態を確認し、理念に反映させている。	管理者を含め、28年度から新体制になられている。開設時からの理念を大切にされており、「その人らしさを尊重し・・・」等の理念の実践に努めている。入居者の得意な事などを発揮して頂くと共に、地域家族交流会(5月・10月)も行われ、地域行事などにも参加している。	「安心感を与えて 楽しく、優しく、笑顔で接します」という理念もあり、今後も優しい声かけの実践に努めていく予定である。「楽しく」生活して頂くためのアイデアを出し合うと共に、職員全員の意見が反映できるチームを作る予定である。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、ゴミ拾い等に参加。回覧板の配達などを行なっている。	夏祭り等を楽しまれると共に、「声かけ運動」では職員が認知症役で参加されている。ホームの敬老会では入居者が毛筆で横断幕を書いて下さり、保育園児のソーラン節の踊りの時は、入居者も「しゃもじ」を叩いて楽しまれた。クリスマス会の時はボランティアの方がハーモニカ演奏をして下さった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区コミュニケーションセンターでの集会時などで施設の説明や地域との交流について地区の方々と話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市、包括、地区の方々から情報をいただき活用している。	外部評価結果も報告し、「地域の方にもっと施設を知ってもらえるよう、色々な行事に顔を出して下さい」等のアドバイスを頂いた。「行事の時に入居者と地域の方を同席にしては」等の意見を頂き、楽しく交流する事ができた。事故報告等も行われ、解決に向けた検討が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類の提出次等に担当者の方と必ず話をするようにしている。	運営推進会議で管理者就任のご挨拶が行われた。事務主任が市の窓口を訪問したり、事故報告の時は当事者が説明に行かれている。「介護を考える会」に参加されたり、「認知症の方の声かけ訓練」や「高齢者虐待防止研修会」など、市からの要請には積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	講習がある時は必ずスタッフか出席し、その都度勉強会を行なうとともに実践していく。	「身体拘束をしない」事とリスク等を家族に説明している。帰宅願望や感情不安定が見られる時は職員が思いを傾聴し、散歩等にお連れしている。ベッドから転倒の危険がある方は、布団に変更する等の対応もされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体だけではなく、言葉の虐待についても勉強会を行ない実践している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パソコンより情報を集め勉強会をしている。また実際に後見人の付いている方がおられ、分からない時は相談する。(司法書士)	毎月の勉強会で成年後見制度の振り返りが行われている。両ユニット共に制度を利用されている方がおられ、後見人の方と情報交換をしている。制度に関するパンフレットを準備しており、家族への説明を行うと共に、入居後も制度の必要性の確認をしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には必ず施設の種類から説明した上で、不安や疑問点を尋ね説明している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族来設時に直接話す機会を作っている。また、玄関に外部相談窓口のポスターを掲示している。	面会時や電話で家族の意見や要望を伺っている。日頃の暮らしぶりも報告し、健康状態や日々のケア内容を理解して頂いており、今後も家族の面談を継続し、真の思いを把握していく予定である。年2回の地域家族交流会を継続し、家族同士の交流も行われている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に施設を巡回し、朝の申し送り等に参加し職員の意見を聞いている。	朝の申し送り時等に職員間の情報共有と意見交換を続けている。気付いた事があった時は申し送りノートに記載し、職員間で共有している。新管理者が全体の職員能力の把握に努めており、「職員が元気であれば、入居者も元気になる」事を伝えている。	新しい職員も加わり、新たな視点で最適なケア方法や業務の在り方のアイデアが湧いてきている。今後も職員個々の意見を大切にすると共に、真のチームワークの在り方を議論していく予定であり、専務等との面談も継続予定である。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設は入居者様あつての運営が成り立つものであり、当然スタッフは介護に精通した者でなければならず、それには施設環境と本人の努力も必要と考える。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用については、男女経験等は問わず、必ずスタッフが研修フォローを行ない本人の努力により一人前になるよう育成している。	社長と専務等が面接している。介護の経験はなくても、“やる気や介護に対する熱意”を大切に採用している。ホームの仕事をしていく中で、職員個々の能力の把握を続けており、職員個々の良い所を見つけると共に、働きやすい環境作りを目指している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	代表、管理者が積極的に入居者様と接し、職員に対し人権教育啓発に取り組んでいる。	職員は入居者のペースを尊重し、規則に縛られない生活を心がけている。理念にも「安心感を与えて楽しく、優しく、笑顔で接します」と掲げており、職員も日々意識して取り組まれている。日々のケアでは管理者や主任が言葉遣い等の指導を続けている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県、市からの研修案内があれば資格取得など可能な限り出席させている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、会が主催する研修等に参加している。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	代表者、管理者が入居前に家族本人からできるだけ多くの情報を収集し、スタッフと打ち合わせを行ない対応している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族や包括、民生委員と話し、情報収集し要望等考慮して支援を行なう。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様が自分の家で過ごしているような環境を作り、今までご自身で使用されていた物を使用してもらう。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何らかの不穏状態になられても、職員が側に付き添い、話を傾聴する。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や遠方のご家族には電話や手紙により近況報告を行ない相談している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族の希望に添って面会や外出、外泊等支援している。	日頃の会話の中で馴染みの人や場所等を教えて頂いている。家族と自宅に行かれたり、職員と一緒に自宅に洋服を取りに行かれる方もおられる。地域のお祭りに行かれた時に、入居前に住んでいた近所の方と再会でき、ご本人も大変喜ばれた。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格等もあり、スタッフが観察し話し合っ席替えなど行なっている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた家族の方がボランティアで草刈りなど協力してもらっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人(家族)の希望を優先し、居室での食事なども対応し、無理強いはいしない。	ご本人や家族に生活歴や趣味等を伺っている。意思表示が難しい方は表情や行動から気持ちを汲み取り、「仕事がしたい」と言われる方には家事等のお手伝いをして頂いている。「美味しいものを食べたい」「買い物に行きたい」等の要望を伺い、願いを叶えるように努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に病院、包括、民生委員の方々より情報もらい、スタッフでカンファレンスを行ない、介護計画に反映させている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りや状態記録により入居者様の現状把握をしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月スタッフ全員で入居者様のモニタリングの結果を話し合い、介護計画を作成している。	ご本人の意向が反映された計画になっている。24時間時系列の3表も作られ、理学療法士が作成したりハビリも実施している。「廊下歩行3往復」「食事は右手で(右半身麻痺の方)」等の具体的な目標を記入しており、計画に基づく実施のチェックも行われている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護実践に基づき朝の申し送りを行ない、全スタッフに情報伝達し意見を取りまとめて介護計画に反映させている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的に柔軟な支援サービスを行なっている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の希望等により、地域の店へ同行し、食事、買物を楽しんでもらっている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に基本的に提携医療機関で話をするが、施設方針としては本人またはご家族の希望に沿うようにしている。	“定期的に往診をして頂ける”と言う事で、協力医療機関に変更される方が多い。医療ニーズの高い方は月2回訪問診療があり、必要に応じて家族に同席して頂いている。職員の小さな気づきも多く、看護師や管理者への報告が行われ、家族との情報交換も続けている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職も日々、入居者様に係っており状態により適切に接している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院期間はスタッフがほぼ毎日訪院し、状態の確認をしたり病院との関係づくりも行ない、家族へも報告している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時点で皆様高齢化されていることもあるが、入居契約時にターミナルについての説明を行ないご家族に理解してもらっている。	「最期はホームで…」と希望される方もおられる。家族にも延命処置等の意向確認をしており、状態の変化時は繰り返し話し合いを続けている。24時間体制で看護師から指示を受ける事ができ、訪問看護師との連携もできている。誠心誠意の終末期ケアが行われているが、「これでよかったのか」と言う振り返りも毎回続けている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護職からの指導等による勉強会を行なっている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今回から防災に対する国・県・市の指導も有り、消防署はもちろん地域消防団、地区の方々を含んだ協力体制の訓練としました。	夜間はホーム内に2人の職員が勤務しており、他の職員とも連携して災害時に対応する訓練を続けている。消防団や区長、区民の方の見学の中で、建物内外の防火、防災の避難経路などの確認が行われた。災害に備えて飲料水や食料、栄養補助ゼリー等を準備している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	友達言葉ではなく、人格を尊重した言葉で声掛けをする。	入居者と目線を合わせ、一人ひとりに応じた声かけをしている。羞恥心の配慮も行われ、排泄時はドアを閉め、希望に応じて入浴時なども同姓介助が行われている。申し送りは事務所で行い、個人情報管理も留意している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を話しやすい環境作りを心掛け、本人の話を傾聴する。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事時間等個人の希望を優先している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人やご家族の希望を取り入れて支援している。また、季節により洋服の入れ替え等も支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日等は本人の好きな物を聞いて食べてもらう。	畑の野菜を入居者と収穫し、包丁で野菜等を切っ下さっている。男性職員は入居者から料理方法を教えて頂き、レパートリーを増やしている。1汁4菜を心がけ、食器にも配慮し、彩りを大切にされている。ピクニック気分を外でお弁当を食べたり、ベランダでおやつを食べられている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日のバイタルチェックや排尿のIN、OUTのチェックを行ない、個々の状態に応じた料理法により支援を行う。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後は必ずスタッフが口腔ケアの介助を行なう。また、訪問歯科による専門的な口腔ケアを行なう。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンをチェックし、紙パンツの方でもトイレへ誘導し介助している。	排泄が自立している方も多く、布の下着を着用する方もおられる。自立支援を大切にされており、パッドの必要性や大きさも個別に検討し、トイレ誘導も個別に行われている。痛み等で座位が困難な方もおられ、体調に応じた排泄支援方法を検討している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の申し送り時、個々の状態を報告し、下剤や摘便を行なうなど医師の指示も含め対応している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日以外で尿失禁などがあった場合、適時対応している。	1階は週3回、2階は週2回になっているが、希望があれば増やす事もでき、失禁時のシャワーも適宜行われている。入浴中は会話を楽しまれ、柚子湯なども楽しまれている。シャワーチェアを購入し、入浴時の負担軽減になっており、洗える範囲は自分で洗われている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的に訪室し、室温の調整や窓を開けて換気などを行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最近では後発薬が増えてきており、薬局、看護師、スタッフで確認し担当医の指示のもと服薬介助をしている。薬の変更後は状態確認しドクターへ報告している。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のいっしょ会で歌、ゲーム、体操を行ったり、スタッフと庭を散歩したり買い物に同行したりして支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春の太宰府園への菖蒲見学や、山神ダム湖の桜の花見に弁当を持参するなどの支援を行なっている。	ホーム周辺を散歩されたり、入居者と一緒に地元のコミュニティーセンターに牛乳パックを持って行かれている。筑前みなみの里で紅葉狩りを楽しまれたり、ショッピングモールのフードコートで食事を楽しまれている。今後は蛍見学なども企画していく予定である。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で管理出来る方が少ない事もあり、お小遣いは事務所で預かり、外出時にはスタッフ同行により本人よりお支払をしてもらっている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等へ電話をしたい等申し入れがあった時は、スタッフが電話をかけてあげるなどの支援をしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間にはとくに清潔を保ち、玄関には花を飾るなどして季節を感じてもらおう。また、室温等についてはスタッフが管理している。	リビングと台所が一体化しており、お料理の音や香りを感じながら過ごすことができる。季節に応じた花を飾り、会話のきっかけにされている。入居者の写真や手作りのタペストリー等も飾られ、入居者の書かれた習字等も貼られている。今後も湿度管理や加湿対策を行う予定である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファ、廊下にはベンチを置いている。また、個人の席については状況を確認しながら変更したりしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みの物を持ってきてもらっており、自宅にいるように感じてもらう。	入居者個々にタンス、テレビ、ソファ、テーブル、鏡、ラジオ、鳩時計、冷蔵庫などを持ち込まれている。ぬいぐるみや人形などを飾られたり、ご本人が作られた飛行機を天井から下げている方もおられる。大切な仏壇やお位牌、遺影等に、ご本人がお水を供えている方もおられる。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入浴の時など自力で出来る部分をご自分で洗ってもらい、出来ないところはスタッフが介助している。また、洗濯物たたみのお手伝いなどお願いしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				